

音学シンポジウム 2017 開催にあたって

齋藤 大輔^{1,a)} 森勢 将雅² 饗庭 絵里子³ 伊藤 貴之⁴ 大谷 真⁵ 北原 鉄朗⁶ 塩田 さやか⁷
高道 慎之介¹ 滝口 哲也⁸ 深山 覚⁹ 吉井 和佳⁵ 渡邊 貫治¹⁰

概要: 2013 年から始まった音学シンポジウムも本年度で 5 回目の開催となる。本稿ではこれまでの音学シンポジウムを受けて実施する「音学シンポジウム 2017」について、その実施の趣旨等について述べる。

1. はじめに

「音学シンポジウム」は、音に関するあらゆる学術分野をターゲットとして、シングルトラックによる招待講演とポスター形式による一般発表によって構成される学術イベントである。2013 年 5 月に初めて開催され、今年が 5 回目の開催となる。本稿では「音学シンポジウム」の企画動機や趣旨の振り返りと本年のコンセプトについて述べる。

2. これまでの音学シンポジウム

第一回の音学シンポジウム 2013 は、情報処理学会音楽情報科学研究会 (SIGMUS) の 20 周年記念企画の 1 つとして企画され、2013 年 5 月 11 日、12 日にお茶の水女子大学で開催された。これまでの音学シンポジウムの中でも何度か紹介されているが、この企画は画像処理分野で日本国内において最も規模が大きいシンポジウムである「画像の認識・理解シンポジウム (Meeting on Image Recognition & Understanding; MIRU)」にインスパイアされて実現されたものである [1]。

これまでの音学シンポジウム全体で踏襲されている基本コンセプトが

- 音・聴覚・言語に関するあらゆる分野を対象とすること
- シングルトラックによって進行すること

の 2 点である。分野毎のセッションが別々の会場にて、パラレルに行われるような形式ではなく、あえてシングル

表 1 これまでの音学シンポジウムの変遷

開催年	日時	開催場所	ポスター発表数
2013	5/11-12	お茶の水女子大学	51 件
2014	5/24-25	日本大学	66 件
2015	5/23-24	電気通信大学	61 件
2016	5/21-22	東海大学	37 件

トラックであらゆる分野を進行する事により、分野間での議論・交流をより活性化させようという狙いがある。

表 1 にこれまでの音学シンポジウムの変遷を示している。表 1 はポスターで発表された一般発表を示しており、これに加えて各回 12 件の招待講演・チュートリアル講演が企画された。さらに音学シンポジウム 2016 では、「MIRU 連携オーガナイズドセッション」が企画された。これは MIRU と連携し、音の研究者と画像の研究者とが 1) 信号処理と逆問題、2) 認識と変換、3) 応用とインタフェースのトピックについてトークバトルをするものであり大変盛況であった。またシンポジウムの参加者についていずれも 250 名をこえる参加者があり、盛況であったといえる。

3. 本年の音学シンポジウム

本年の音学シンポジウム 2017 は 6 月 17 日、18 日にお茶の水女子大学にて行われる。2014 年の音学シンポジウムより、SIGMUS 以外の多様な意見を積極的に運営に取り入れるため、実行委員会を立ち上げ、協賛研究会から 1-2 人ずつ参画する形式を採用している。本年は、これまでの 3 つの協賛研究会 (電子情報通信学会/日本音響学会 音声研究会 (SP)、電子情報通信学会 応用音響研究会/日本音響学会 電気音響研究会 (EA)、日本音響学会 聴覚研究会 (H)) に加え、新たに情報処理学会 音声言語情報処理研究会 (SLP) が協賛研究会として加わった。さらにこれまでの音学シンポジウムでは発表が少なかった建築音響分野の講演充実のため、京都大学の 大谷真氏に実行委員として参

¹ 東京大学
² 山梨大学
³ 電気通信大学
⁴ お茶の水女子大学
⁵ 京都大学
⁶ 日本大学
⁷ 首都大学東京
⁸ 神戸大学
⁹ 産業総合技術研究所
¹⁰ 秋田県立大学
a) dsk_saito@gavo.t.u-tokyo.ac.jp

表 2 音学シンポジウム 2017 実行委員会

委員長	齋藤 大輔 (東京大学)
副委員長	森勢 将雅 (山梨大学)
委員	饗庭絵里子 (電気通信大学)
委員	伊藤 貴之 (お茶の水女子大学)
委員	大谷 真 (京都大学)
委員	北原 鉄朗 (日本大学)
委員	塩田さやか (首都大学東京)
委員	高道慎之介 (東京大学)
委員	滝口 哲也 (神戸大学)
委員	深山 覚 (産総研)
委員	吉井 和佳 (京都大学)
委員	渡邊 貫治 (秋田県立大学)

画いただいた。表 2 に実行委員会の体制を示す。

音学シンポジウム 2017 では、全体テーマを「実世界とつながる音学」として、様々な側面から音の学問と実世界のつながりについて考えることとし、次の方々に招待講演をお願いする事となった(五十音順)。

- 荒井 隆行 先生 (上智大学)
- 岩宮 眞一郎 先生 (九州大学)
- 岩谷 幸雄 先生 (東北学院大学)
- 尾本 章 先生 (九州大学)
- 杉浦 孔明 先生 (情報通信研究機構)
- 田中 章浩 先生 (東京女子大学)

いずれの方もこの全体テーマに合致した大変興味深い研究成果をお持ちであり、かつ音学の多様な側面を垣間見る事ができるのではないかと考えている。

さらに昨年度より始めた試みとしてチュートリアル講演がある。これは昨年度、音に関する各分野の基礎的な知識を分かりやすく伝えることをコンセプトとして企画された。本年は、このコンセプトをベースに「招待講演のより深い理解」を目的として、招待講演とそれぞれ対応するチュートリアル講演を次の方々にお願いする事とした。

- 安 啓一 先生 (筑波技術大学)
- 金 基弘 先生 (駿河台大学)
- 渡邊 貫治 先生 (秋田県立大学)
- 鈴木 久晴 先生 (エヴィクサー)
- 吉井 和佳 先生 (京都大学)
- 佐藤 好幸 先生 (東京大学)

これら計 12 件の招待講演・チュートリアル講演と、ポスター発表を通して音学のさらなる発展と交流ができればと期待している。

また本年の工夫として、参加者間の交流を促進を狙い、講演の間に従来よりも時間的な余裕を設けている。参加者の皆さんに講演聴講後の議論に花を咲かせていただければと考えている。

4. おわりに

「音学シンポジウム」も本年で 5 回目を迎え、少しずつ成熟しつつある。一方で幅広い「音に関するあらゆる分野」をカバーし、そこに交流を生むためには、これからも様々なチャレンジを行っていく必要がある。これからも、参加者各位とともに経験を積み重ね、よりよいシンポジウムを目指していきたいと考えている。

参考文献

- [1] 亀岡 弘和 他:「音学シンポジウム 2014」開催にあたって、情報処理学会研究報告, 2014-MUS-103-1 / 電子情報通信学会技術報告, IEICE-SP2014-1, May 2014.